



宇都宮駅東地区商業会（鬼怒通り）

宇都宮商店街めぐり 第4回

宇都宮駅東地区
商業会

「駅東の拠点整備と商店会は、 共存共栄できるはずですよ」

「京都の玄関口、JR宇都宮駅東に展開する「宇都宮駅東地区商業会」は、来年1月、設立30周年を迎えます。

駅東口駅前通り商店会、柳通り商店会、公園通り商店会で構成する「宇都宮駅東地区商業会」は、経済、社会環境の変遷とともに、この30年間で大きく様変わりしました。小売り、個人商店が大幅に減少し、ピーク時には180を超えた会員数は、現在、半分に以下に。その一方、マンションの増加で一般住民が増え続けているという現

象が起きています。

こうした状況の中にあつて、同商業会は常に「地域密着型の商店会」として地域住民、学校、街づくり団体とをつなぐパイプ役を果たし、地域の活性化に貢献してきました。

多い年は6万人もの人出で賑わう恒例の「駅東花みずきフェスタ」では資金（寄付金）集めに奔走するなど主催団体の中核としてイベントを支えています。宮の市（朝市）では、昼過ぎ1時まで延長し人の呼び込みを努めました。今泉小学校庭で開催する盆踊りは、地域の連帯感の醸成に欠かせません。また街路灯、防犯灯の設置など治安を守る活動にも協力しています。

大型店の移転、撤退で危機感を持つ商店会にとって、駅東地区再開発は転換期でもあります。この11月には宇都宮駅東西自由通路が開通し、まちの顔は大きく変わっていくことが予想されます。

南木成夫会長は「人が商店会に流れて来てくれることを期待している。街が明るくなることは間違いないと思います」と話します。

再開発への期待感とともに「地元商店会の存在が埋没してしまうのでは」との



南木 成夫 会長

※このコーナーは隔月で掲載します。

声があるのも事実。そんな不安に対し商業会のメンバーは「現在は移転しているイートヨーカドーができたとき、地元は活性化した。駅東再開発と地元商店会の共存共栄は必ずできる。そのためには商店会自身、誘客するために知恵を出し合い、人を呼び込めるイベントを創り出す努力をしなければなりません」と応えます。大きな可能性を秘めた商業会の、魅力ある街づくり。そのパワーに期待が集まっています。

宇都宮駅東地区商業会 ●会員数 85 店舗

